

緊急事態宣言がようやく解除され、久しぶりの自然観察会を実施することができました。今年はこれでやっと3回目です。子どもの姿が少なめでしたが、たくさんの生きものの姿に出会うことができました。

イボタノキの枝にスズメウリがツルを伸ばしていました。直径2cmほどの緑の実がなっていました。その少し上の枝にムネアカハラビロカマキリの卵鞘がついていました。この数年でこの卵鞘も珍しい存在ではなくなっていました。アメリカセンダングサが勢いよく繁茂して黄色い花がたくさん咲いていました。



スズメウリ



ムネアカハラビロカマキリの卵鞘



アメリカセンダングサ

ゾウムシに詳しい参加者がカツオゾウムシを採って見せてくれました。茶色い粉を纏っているように見えました。足元ではボーマリア菌に侵された黒い虫が見つかり、わずかながら動いていましたが、菌に覆われていて甲虫なのかカメムシなのかもわかりませんでした。ジョロウグモは多くが丸々と成長していました。



カツオゾウムシ



ボーマリア菌に侵された虫



ジョロウグモ

ハナグモのおなかの部分を「笑ってる顔に見える」と子どもが言っていました。カラスウリはあちこちで見られましたが雌株が少ないのか実は多くありませんでした。道端の子チミザサは穂が育ち触るとベタベタしていました。チチミザサの粘液はカギ状の実がくっつくひつき虫よりもやっかいだという人もいました。



ハナグモ



カラスウリ



チチミザサ

参加者の女の子たちが次々と虫網でチョウをつかまえてきました。ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、イチモンジセセリなどです。チカラシバやカゼクサなどイネ科の植物の穂もとてもたくさん目につきました。



ヤマトシジミ



ウラナミシジミ



チカラシバ



8月に見たときは広い範囲に繁茂していたエビスグサですが、その後草刈りがされて数が減っていました。黄色い花とともに細長く伸びた豆の鞘が見られました。湿地の方へさしかかったあたりでウメモドキが赤い実をたくさんつけていました。また一面のミゾソバの中にシロバナサクラタデの花がところどころで咲いていました。



池の脇のミゾソバでベニスズメの幼虫が見つかりました。ヘビに擬態しているとも言われますが効果があるのかどうかは不明です。またすぐそばにナシケンモンの幼虫もいました。ナシケンモンの幼虫には黒色とオレンジ色のタイプがあり、去年の11月の自然観察会で同じ場所で見つかった幼虫は黒いタイプでした(写真円内)。



シラタマホシクサを見に行きました。今年もたくさんの花を咲かせていました。一緒に見られるスイランは近年数が減っているのを心配する声が聞かれました。そうしているところへ黒いガがヒラヒラと飛んできてとまりました。ホタルガでした。幼虫はヒサカキを食べます。田んぼへ移動すると、色づいたイネが穂を垂れていました。



近くの杭にとまっていたのはヒメエグリバでした。この自然観察会では過去にアオツツラフジについている幼虫を観察したことがあります。この日が初参加という男の子が、朝から「カマキリが探りたい」と言っていました。観察会の終わる頃にオオカマキリが見つかり夢中で追いかけてきました。飛んで高い木の上にとまてしまいましたが、柄を竹の棒につないで長くしてもらった虫網を使って奮闘の末、なんとか捕らえることができました。



平和公園での観察項目(観察順)：ウスバキトンボ、スズメウリ、アメリカセンダングサ、キゴシハナアブ、ムネアカハラビロカマキリの卵鞘、カツオゾウムシ、ヒヨドリノ巣、コベニスジヒメシャク、幼虫(緑のイモムシ)、ジョロウグモ、マツムシ、ポーベリア菌に侵された虫、イナゴの仲間、イチモンジセセリ、ムクゲ、ツマグロオオヨコバイ、ノブドウ、アケビ、イモカタバミ、ノコンギク、アキノノゲシ、ツユクサ、メダカナガカメムシ、カタツムリの殻、アズチグモ、チヂミザサ、カラスウリ、ヤマトシジミ、ヤブマメ、コカマキリ、チカラシバ、カゼクサ、シオン、ウラナミシジミ、ウスノキ、ハラナガツチバチ、ヤノネグサ、ウメモドキ、ポントクタデ、エビスグサ、ハシボソガラス、ミゾソバ、ヒラタアブ、シロバナサクラタデ、ナシケンモンの幼虫、ベニスズメの幼虫、ジュズダマ、アメンボ、ヤゴの抜け殻、アメリカザリガニ、イネ、シラタマホシクサ、ホタルガ、スイラン、ミズギボウシ、ヒヨドリバナ、クロコノマチョウ、シソクサ、イネ、ヌメリグサ、ヒメエグリバ、オオカマキリ、セイタカアワダチソウ、ヌマガエル、キクイモ